

ME MANUFACTURING EXPO 2019



第一実業株式会社(本社:東京都千代田区)は、プラント及び機械器具の国内販売ならびに輸出入を行う機械専門商社。海外で子会社18社を展開するグローバル企業で、タイには1995年に進出し、現地法人、第一実業(タイランド)を設立した。今後のタイ市場の見通しなどについて、同社の植蔭啓ゼネラルマネージャーにお聞きした。

出展者インタビュー

Daiichi Jitsugyo (Thailand) Co., Ltd.
(DJK) 第一実業(タイランド)

General Manager, Machinery & Systems Solution Div.

植蔭 啓氏

Mr. Akira Ueshima

出展ブース:0B49 (HALL100)



貴社の業務内容を教えてください。

主に自動車向け射出成形機や電子部品の表面実装機(チップマウンター)などを主力製品とする機械専門商社です。現在、日本人11名、タイ人36名の計47名で、主に日系の自動車関連企業に機械の提案・販売からアフターサービスまでトータルソリューションを提供しています。

「マニュファクチャリングエキスポ(ME)2019」に出展する目玉製品・技術は何ですか?

弊社は2017年から出展をしており、今回が3回目。プラスチックと金属の成形・加工技術の分野で定評がありますが、表面塗装(Surface & Coating)技術にも自信があります。(約9割を占める)自動車から白物家電、携帯電話端末などまで、幅広い製品の塗装を請け負っています。現地のファブリーケーター(製造業者)に塗装工程の取りまとめを任せていますが、重要な塗装ブースは日系企業の

製品を使用します。

そこで今回は、表面塗装チームが、自社製品(PB)の「スラッジセパレーター」と「タイフーン」を展示します。埃が付きやすく、温度の変化で不良が発生する塗装の工程。前者は汚水を電解水に変えて、粕だけを除去する環境に優しい製品です。後者はシンガポールで開発されたため、日本国内でまだ紹介されていませんが、渦巻潜流でゴミを除去する優れたものです。除塵システムで不良品を低減させます。ほか、安川電機様(産業用ロボット)と旭サナック様(ベルガン)の製品を組み合わせ、塗装のデモンストレーションを行う予定です。

東南アジアで展開するにあたって、「ME 2019」にどのような役割を期待しますか?

弊社はプラスチック・金属関連企業としてよく知られていますが、塗装を扱っている企業としての存在感は低いのが現実。もっと知名度を上げることが出展目的の一つです。タイの地場企業に加えて、中国、韓国の

塗装技術が向上し、競争が激化するなか、日系企業だけでなく、来場するミャンマー、インド、ベトナムなどの近隣国及び中国の企業との取引を伸ばしたいと思います。

タイ製造業界の展望・見通し(今後1~2年後)

機械設備に関する問い合わせは現状維持。ただ、自動車生産が堅調で表面塗装については成長が見込めます。タイの製造業者が加工後の塗装技術で力をつけてきており、塗装設備への投資は伸びると予測します。

企業・来場客へのメッセージをお願いします。

既存の塗装ラインをより効率化し、現場の環境を改善する「スラッジセパレーター」と「タイフーン」は、日本国内でほとんど販売されていません。アジア発の塗装機械の実演を見るために、ぜひ立ち寄っていただきたい。